

2024年度・自己評価評価結果

三ツ境たんぽぽ保育園

2025年3月

2024年度 三ツ境たんぽぽ保育園 自己評価結果

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。このことを踏まえて三ツ境たんぽぽ保育園では保育の質の向上を図るために職員・保育所の自己評価を毎年実施しています

今年度の本園の保育・教育全般を項目・視点・方法を総合的に評価し、結果を下記の通り公表し、子どもの理解を基盤に保育を振り返り、自分の保育の良さや課題を捉え、職員の自己評価を振り返り全職員の共通理解のもと、本園の保育理念・方針・目標に記載されているように十分に擁護の行き届いた環境の中で、子どもを真ん中に保護者・職員・地域が共同で子どもの笑顔・成長・子育ての喜びを共有することを引き続き大切にして保育をおこなっていきまます職員一同、よりよい保育に向けた改善や充実に取り組み、信頼関係を引き続き築いていきたいと思ひます。

A→出来ている・わかる B→あまりわからない・やや不十分 C→わからない・改善・検討を要する

項目	内容	総合評価
保育理念	園の保育理念・保育方針・保育目標を理解している。目標に沿って保育を意識的に行っている	A
	子どもの人権が尊重され、大切にされていると感じている	A
	適切でない対応をしている他の職員の行為を目にした時、助言が出来ている	B
	子どもからの様々なサインを見逃さず子どもの求めている援助が出来ている	B
	新保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っている	A
	理念	①十分に擁護の行き届いた環境の下、子どもを真ん中に保護者・職員・地域が共同で子育ての素晴らしさを実感する ②保育園と家庭が常にコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き互いに協力し合う ③子どもの笑顔や成長・子育ての喜びを共有し、楽しく充実した保育園生活を送り心身の健康の基礎をつちかい健やかに育ち合う
方針	①子どもの要求や意欲を大切にする ②毎日の生活と遊びの中で力いっぱい活動する ③健康な身体と確かな考え豊かな心を持つ子どもに育てる	
目標	①毎日の生活や遊びの中で日々充実した集団生活を送る ②異年齢の子どもとの関わりや仲間達と体験を積み重ね、共に喜び、たくさんの事を学びながら生きる力・育つ力を身に付けて成長して行く	
子どもの発達援助	子ども一人一人の発達状況と子どもの置かれている状態を理解、把握し保育を行っている	A
	子どもが安心して自分をゆだねられる存在となっている	A
	保育過程に基づいた具体的な指導計画を作成している	A
	各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画になっている	A
	子どもにわかりやすい言葉使いや優しい語り穏やかに話しかける等、留意して保育を行っている	A
	遊びや生活を通して散歩など戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている	A
	子どもの24時間の生活に配慮し一日の生活リズムが無理なく過ごせるように配慮している	A
	保育士自身が積極的に子どもと関わり遊んでいる	A
	食物アレルギー等、個別に配慮し食事を提供している	A
食事を楽しむことが出来る工夫をしている	A	
食事	手作りおやつ、季節感のある食材、食育活動全般など工夫している	A
	子どもの食生活を充実させるために家庭と連携している	A

人間関係 環境 言葉 乳児保育 長時間 延長保育 保護者・地域に対する支援 保育を	子どもが思ったことを友だちに伝え、相手の思っていることに気付くように援助している	A
	進んで外遊びや散歩等戸外で遊ぶ機会を多く取り入れ子どもが戸外で過ごす事の心地よさや楽しさを十分に味わう事を大切にしている	A
	異年齢の子どもとの交流が楽しめるように工夫・意識している	A
	子どもが主体的に活動出来る環境を整備し子どもの生活と遊びを豊かにする保育を行っている	A
	職員が協力して、園内外の整備・管理にあたり定期的に点検を行っている	A
	障害の有る無しに関わらず安心して生活できる保育環境を整え、保育内容や方法に配慮をしている	A
	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ子どもが心地よく過ごせるように配慮している	A
	子ども・保護者と心のこもった挨拶をしている	A
	正しい言葉使いや声の大きさに配慮して子どもに話しかけている	A
	授乳やおむつ交換の際は安心出来るような声掛け・スキンシップを心がけている	A
	ひとり一人の子どもをよく観察し、その場に適した言葉がけを心がけている	A
	ひとり一人の発達や生活リズムを把握し必要な援助を行っている	A
	SIDS(乳幼児突然死症候群)防止の為、仰向けに寝かせる定期的に睡眠時の状態を観察・記録するなど、必要な措置を講じている	A
	事故予防に努めた保育を行っている (おんぶ・抱っこ・乳母車・沐浴・おむつ交換等)	A
	子どもの状況について職員間の引継ぎを適切に行っている	A
	長時間にわたる保育について一日の疲れや保護者を待つ気持ちを受け止めながら温かく関わり落ち着いて過ごせるように保育を行っている	A
	園での様子を伝え家庭での様子を聞く中で子どもの成長や子育ての喜びを保護者と共有出来るように配慮している	A
	日常の保育や行事に参加する中で、保護者に理解し援助してもらえるように配慮している	A
	子育てに関する不安や悩みなどの相談を受け止め、適切に助言、対応、援助をしている	A
	入園説明会やクラス懇談会・個人面談などで、保育内容や目的を分かりやすく説明し、情報提供や個別支援などを行っている	A
保護者からの相談内容などを自分一人の問題にしないで、園長・主任などに相談している	A	
地域と良好な関係を築けるよう挨拶や、子育て中の地域の方に向けた支援活動・交流を自身でも意識し積極的に取り組み、役割を担っている	A	
中高生の職場体験や保育実習生の受け入れ体制について、その意義や方針を全職員が理解し、自身が指導的な立場である事を意識している	A	
医療機関、児童相談所などの専門機関や、保育の充実の為に関係機関との連携を十分行い、保護者にとって必要な情報を提供している	A	
地域の小学校や近隣保育園との間で交流する機会を設けている	A	
子どもの健康状態、体調不良や怪我などの情報を職員間で共有している	A	
地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶ事が出来るような場の設定を行っている	A	
地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れている	A	

支 え る 組 織 的 基 礎 保 育 の 計 画 と 保 育 内 容 の 自 己 評 価	不審者への対応や災害時の適した行動を理解している	A
	保育室の換気や温度・湿度に配慮して保育を行っている	A
	玩具・遊具については必要に応じて消毒し衛生面に配慮し、破損の有無の確認をしている	A
	施設、設備の安全点検を計画的に行い、点検マニュアルに沿って行い、不具合の箇所は必要な対策をとっている	A
	子どもが交通安全の習慣、危険な場所や遊びがわかり、安全に気を付けて行動できるように働きかけている	A
	心肺蘇生などの研修を行っている	A
	保育常務で知りえた子どもの家庭に関する秘密の保持について周知し守られている	A
	こどもの個別記録はたんぽぽ個人情報保護方針に基づき適切に管理している	A
	保護者・入所児童・または職員に関しての秘密は絶対に他言していない	A
	保護者の要望や苦情等に対し、その解決を図るように努めている	A
	保育理念・方針・保育計画・指導計画のねらいなどの内容を保護者に分かるように伝えている	A
	保育計画が適切であったか、振り返りを行い改善している	A
	自らの保育実践を振り返り問題点や課題を見つける事ができ、自らを評価し専門性の向上や改善に努めている	A
	クラス職員連携、全体の連携を意識して、具体的な行動をとっている	A
	職員会議などで、保育の質の向上につながる質問、意見、発言を積極的にしている	A
	他の職員の発言や意見から気付いたり学んだりすることがある	A
	園内外の研修に目的を持って積極的に参加し、人間性を豊かにするために自己研鑽をしている	A
	園内の研修の計画作りに参加し、積極的に保育の質向上に努めている	A
	子どもの最善の利益を尊重した保育をしている	A

【園全体の評価】

・「保育園と家庭が常にコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き互いに協力をする」「子どもの笑顔や成長・子育ての喜びを共有し、楽しく充実した保育園生活を送り心身の健康の基礎を培い健やかに育ち合う」という事を大切にしながら子ども達の人権に十分配慮し、子ども達が自ら主体的に遊び、生活出来るように職員集団で話し合い、保護者の協力・理解の下、最善と思われる策を取りながら子ども達の命を守る事を最優先に安全・安心の保育を努める事ができた。

・一人ひとりの保護者と保育園と家庭での様子の伝え合いを大切にし、意見交換など日頃の子育てについての交流を深め合い信頼関係を深めることを心掛け、クラス懇談会の工夫や、個人面談を行う中で情報を共有することができた。

・園内外職員研修は全職員で心理的安全性/ハラスメント・救命救急講習・AED研修、子どもの発達、食育活動などの研修を行い、研修報告の中で意見交換や、理解を深め合い、保育の質向上に繋げる事ができた

・地域の取り組みとして、地域交流(保育園開放・あそぼう会)の参加は0歳児クラスと交流を深める事ができた。旭区主催の子育て支援(子育てマルシェ)や食育セミナー・神奈川保育大学などに実行委員として職員が積極的に参加し取り組み力を注ぐことができた。

・近隣保育園や小学校と連携し、積極的に幼保小交流に取り組み交流を深める事ができた。

・職員会議の中で意見・計画を出し合い、こどもがワクワクするような取り組みや行事を職員全体で進めることが活発にできた。

【来年度の課題】

保育園は入所する子どもの福祉を積極的に増進する事に「最もふさわしい生活の場」でなければならない。引き続き子どもの権利や子どもの人権を保障した保育実践を配慮して保育を行う中で子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには職員一人一人の倫理観、人間性に並びに保育園職員としての職務及び責任の理解と自覚をもって保育を行うために、職員が学んだり考えたりする機会の環境を整え、研修の計画、その成果の活用、共有の仕方、職員会議等の充実などについて検討する事等を引き続けていく。

- ・職員会議や打ち合わせなどでしっかりと話し合い・語り合い・学び合いを重ね職員間の連携を大事にし保育方針、目標など共通認識を持って保育や行事をおこない引き続き安心・安全な保育に努めて行く。

- ・園内外の研修の充実により一人ひとりの知識を高め学んできたことを共有し、日々の保育に役立て、実践を職員で振り返り、全職員が同じ方向を向いて保育をし、心に余裕を持って引き続き保育を行う。

- ・R6年度は全国保育士会の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を全職員で行う中で「子どもを尊重する保育」のためにどのような事の心掛けが必要であるのか「子どもの人権擁護」の視点から自らの保育を振り返ることは大切である事などを再確認できた。保育現場で働く職員が「子どもを尊重する」「子どもの人権擁護」についてあらためて意識を高めるために、職員子どもへの関りや保育所保育指針に示す「子どもの人権・人格の尊重」などについて不適切保育防止研修をおこない、引き続き日々の保育の質の向上を目指して保育を行う。

- ・保護者との個人面談・保育行事や保育参加・参観の中で日々の保育の様子を知ってもらう機会を多く設けることで、より信頼関係を深めコミュニケーションを心掛けることを丁寧に大切に行う。

評価の結果を踏まえ今後も子ども、保護者、職員一人ひとりに寄り添い、より良い人間関係を築いて行く。また、更なる保育の質の向上を目指しより良い保育の提供と人材育成に努めより良い保育園運営を目指して行きます。来年度も引き続きよろしく願いいたします。